

ドイチェ・ライフ・プラン 50

追加型投信/内外/資産複合

月次報告書



基準日：2024年3月29日

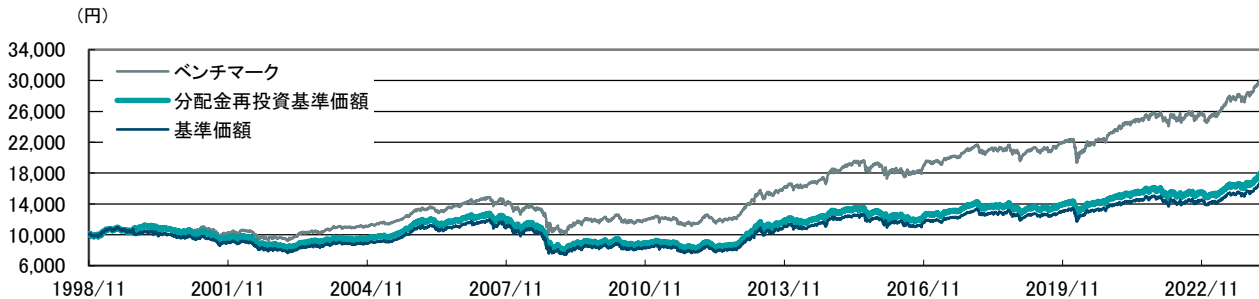
設定・運用：ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

1. 基準価額の推移と騰落率

(2024年3月29日現在)

基準価額	17,086 円
純資産総額	20.1億円

【基準価額とベンチマークの推移】



※分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。ただし、設定来の分配金が0円のファンドにつきましては基準価額と重なって表示されております。

※基準価額の推移は、信託報酬控除後の価額を指数化して表示しております。

※ベンチマークは設定日を10,000として指数化して表示しております。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	2.40%	9.41%	11.43%	18.83%	19.99%	35.30%	82.74%
ベンチマーク	2.07%	7.74%	10.51%	18.59%	25.58%	45.70%	206.88%

上記ベンチマークは、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が、国内債券（NOMURA-BPI総合）、国内株式（TOPIX（東証株価指数：配当込み））、外国債券（FTSE世界国債インデックス（除く日本））、外国株式（MSCIコクサイ指数（配当込み））、現預金等（有担保コールレートをそれぞれ中立配分で加重して計算したものです。

税引前分配金実績（一万口あたり）

分配金	分配金累計：700 円						
	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期
分配金	0	0	0	0	0	0	0

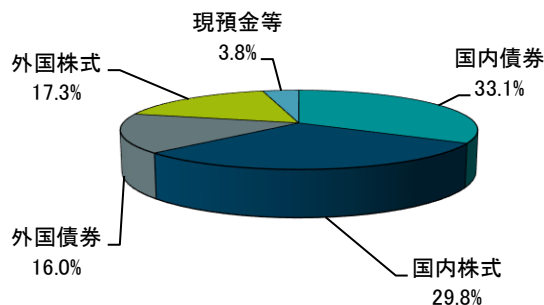
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

2. 資産配分状況

【基本アセット・ミックス】

	ファンド	中立配分	差異
国内債券	33.1%	37.0%	-3.9%
国内株式	29.8%	27.0%	2.8%
外国債券	16.0%	17.0%	-1.0%
外国株式	17.3%	16.0%	1.3%
現預金等	3.8%	3.0%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	-

【ファンドの資産構成比】



* 中立配分は、原則として3~5年に一度見直しされ変更されることがあります。

* 上記比率はファンドの純資産総額比率です。

【ドイチェ・日本債券マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



【注】

- * 各構成比はドイチェ・日本債券マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイチェ・日本債券マザーのベンチマークはNOMURA-BPI総合です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。
- * 種別区分はBPI種別に変動利付国債セクターを加えた、当社独自の区分によります。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド	-0.1%	-0.5%	0.3%	-2.3%	-5.0%	-5.9%	38.5%
ベンチマーク	-0.1%	-0.5%	0.4%	-2.2%	-5.0%	-5.8%	35.9%

【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：16

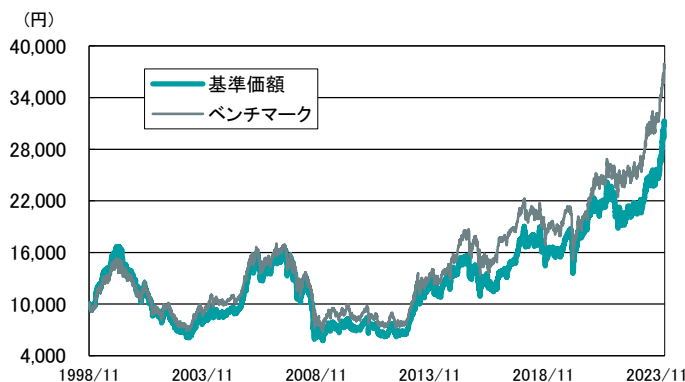
	銘柄名	クーポン	償還日	構成比
1	第141回利付国債(20年)	1.70%	2032/12/20	12.8%
2	第42回道路債券	2.22%	2025/3/21	10.4%
3	第120回利付国債(20年)	1.60%	2030/6/20	7.7%
4	第174回利付国債(20年)	0.40%	2040/9/20	7.6%
5	第184回利付国債(20年)	1.10%	2043/3/20	7.2%
6	第99回利付国債(20年)	2.10%	2027/12/20	7.1%
7	第47回利付国債(30年)	1.60%	2045/6/20	6.2%
8	第149回利付国債(20年)	1.50%	2034/6/20	5.5%
9	第7回利付国債(40年)	1.70%	2054/3/20	5.3%
10	第347回利付国債(10年)	0.10%	2027/6/20	5.1%
	上位10銘柄の合計			74.8%

【種別構成比】

	債券種別	構成比
1	国債	86.6%
2	政保債	10.4%
3	地方債	0.0%
4	金融債	0.0%
5	事業債	0.0%
6	円建外債	0.0%
7	変動利付国債	0.0%

【ドイチェ・日本株式マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



【注】

- * 各構成比はドイチェ・日本株式マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイチェ・日本株式マザーのベンチマークはTOPIX(東証株価指数:配当込み)です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。
- * 業種は東証33業種分類によるものです。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド	5.8%	23.2%	25.1%	44.0%	45.4%	90.0%	211.7%
ベンチマーク	4.4%	18.1%	20.5%	41.3%	52.5%	96.2%	276.7%

【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：55

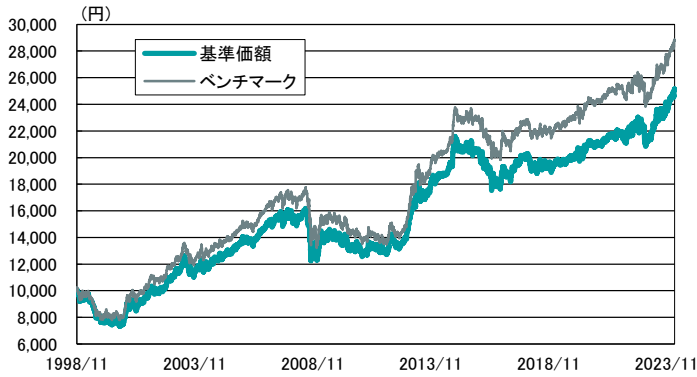
	銘柄名	構成比
1	三菱商事	4.8%
2	三越伊勢丹ホールディングス	4.7%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.6%
4	日本取引所グループ	4.2%
5	東京エレクトロン	3.8%
6	九州フィナンシャルグループ	3.4%
7	三井不動産	3.3%
8	本田技研工業	3.1%
9	京都フィナンシャルグループ	3.1%
10	HOYA	3.0%
	上位10銘柄の合計	38.0%

【組入れ上位10業種】

	業種	構成比
1	銀行業	13.1%
2	電気機器	12.5%
3	小売業	8.4%
4	輸送用機器	6.9%
5	化学	6.9%
6	卸売業	6.8%
7	その他金融業	6.3%
8	情報・通信業	5.1%
9	保険業	4.0%
10	不動産業	3.3%

【ドイチェ・外国債券マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



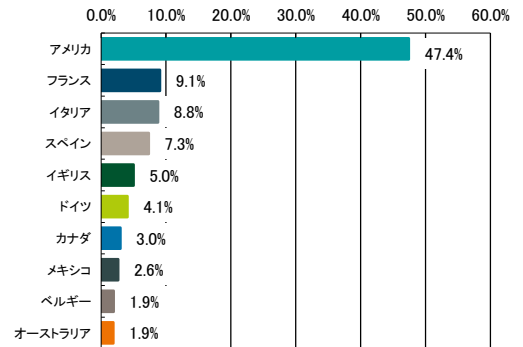
【注】

- * 各構成比はドイチェ・外国債券マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイチェ・外国債券マザーのベンチマークはFTSE世界国債インデックス(除く日本)です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド*	1.4%	4.4%	7.8%	14.9%	17.7%	27.1%	150.9%
ベンチマーク	1.3%	4.4%	8.2%	15.2%	16.9%	28.2%	188.2%

【国別配分上位10ヶ国】



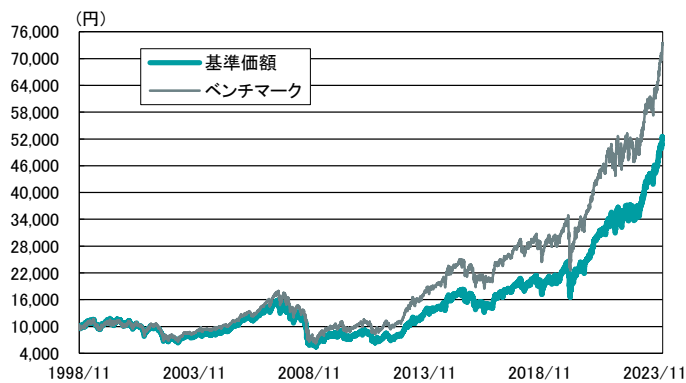
【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：25

	発行国	銘柄名	クーポン	償還日	構成比
1	アメリカ	UST 1.5% 08/15/26	1.500%	2026/8/15	10.0%
2	イタリア	BTPS 1.5% 06/01/25	1.500%	2025/6/1	6.8%
3	アメリカ	UST 4.25% 05/15/39	4.250%	2039/5/15	6.4%
4	アメリカ	UST 2% 08/15/25	2.000%	2025/8/15	6.2%
5	アメリカ	UST 2.75% 02/15/28	2.750%	2028/2/15	6.0%
6	フランス	FRTR 4.5% 04/25/41	4.500%	2041/4/25	5.5%
7	アメリカ	UST 0.625% 05/15/30	0.625%	2030/5/15	5.2%
8	スペイン	SPGB 1.6% 04/30/25	1.600%	2025/4/30	4.5%
9	アメリカ	UST 3% 07/31/24	3.000%	2024/7/31	4.2%
10	ドイツ	DBR 4% 01/04/37	4.000%	2037/1/4	4.1%
上位10銘柄の合計					58.8%

【ドイチェ・外国株式マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



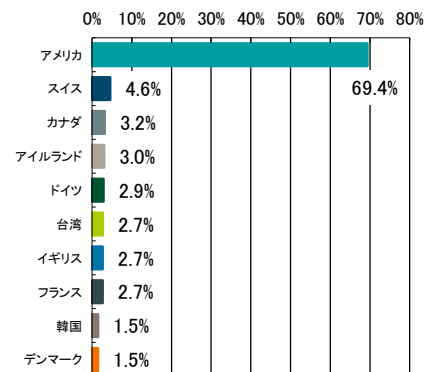
【注】

- * 各構成比はドイチェ・外国株式マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイチェ・外国株式マザーのベンチマークはMSCIロクサイ指数(配当込み)です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。
- * 業種はMSCI/S&P GICS(世界産業分類基準)によるものです。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド*	3.3%	14.4%	20.8%	44.2%	82.6%	159.8%	423.3%
ベンチマーク	4.2%	15.9%	23.1%	44.2%	80.3%	152.8%	635.1%

【国別配分上位10ヶ国】



【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：75

	銘柄名	構成比
1	MICROSOFT CORPORATION	5.9%
2	ALPHABET INC-CL A	5.5%
3	META PLATFORMS INC-A	3.4%
4	VISA INC-CLASS A SHARES	3.2%
5	APPLE INC	2.9%
6	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	2.7%
7	BOOKING HOLDINGS INC	2.5%
8	APPLIED MATERIALS INC	2.3%
9	NESTLE SA-REG	2.1%
10	HOME DEPOT INC	2.0%
上位10銘柄の合計		32.4%

【組入れ上位10業種】

	業種	構成比
1	医薬品・バイotech/ロジック・ライフサイエンス	11.6%
2	メディア・娯楽	9.5%
3	ソフトウェア・サービス	9.0%
4	一般消費財・サービス流通・小売り	7.8%
5	金融サービス	7.8%
6	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.6%
7	半導体・半導体製造装置	7.2%
8	銀行	5.9%
9	保険	5.8%
10	ヘルスケア機器・サービス	4.9%

ファンド・マネジャーのコメント

1. 今月の投資環境

【日本債券】

3月の日本の10年国債利回り(以下、長期金利*)は小幅上昇(価格は下落)しました。月の前半は、市場が日銀の政策修正期待を織り込む中、金利は上昇しました。その後、日銀は会合で、市場予想通りマイナス金利政策を解除しましたが、植田日銀総裁は当面は緩やかな金融政策を継続することを強調し、追加利上げを急がない見方を示唆したことから、金利は低下しました。

【日本株式】

3月の国内株式市場の騰落率はTOPIX(配当込みベース)で+4.44%となりました。上旬から中旬にかけては、日銀による金融政策修正のタイミングが早まるという見方が強まり、為替市場で円高ドル安が進行したことを受けて、調整する場面も見られました。日銀金融政策決定会合ではマイナス金利政策が解除され、17年ぶりの利上げとなりましたが、すでに市場には織り込み済みであったことや、今後も緩やかな政策を続けるとの姿勢が好感され、会合後も株式市場は上昇を続けました。米国では、連邦公開市場委員会(FOMC)で利下げが見送られるとともに、中期的に米国経済は底堅く成長していくという見通しが示されたことで為替市場でドル高円安が進みました。これを受けて国内株式市場では幅広い業種に買いが入り、日経平均株価は4万円台を回復し、TOPIX(東証株価指数)も1989年12月に記録した史上最高値に迫りました。月末にかけては材料難の中、株式市場はもみあいの動きとなりました。

【外国債券】

3月の主要国の長期金利は、米国、欧州(ドイツ)ともに低下しました(価格は上昇)。米国では、月央にかけては、2月の消費者物価指数(GPI)が市場予想を上回ったこと等を受けて、早期利下げ観測が後退し、金利は上昇しました。その後、米FOMCで、2024年の物価見通しが上方修正されたものの、年内の3回の利下げ見通しが維持されたことが市場で好感され、金利は低下しました。欧州では、欧州中央銀行(ECB)理事会において、インフレ見通しが引き下げられたことや、ラガルド総裁が6月の利下げを示唆したこと等を受け、金利は低下しました。欧州周縁国債の長期金利についても、欧米金利低下の流れを受けて低下しました。

【外国株式】

3月の世界株式市場で株価は上昇しました。パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言や、米FOMCの政策金利見通し(中央値)で年内3回の利下げ予想が維持されたこと等から米利下げに対する期待が広がり、株価が上昇しました。また、ECBのラガルド総裁が6月利下げの可能性を示唆したことや、スイス中銀による予想外の利下げ等も株価を押し上げる要因となりました。

2. 今月の投資行動

【日本債券】

金利動向を睨みつつ、デュレーション*についてはベンチマークよりやや長めで調整しました。年限別では、超長期年限をオーバーウェイトとしました。資産別では、国債や政府保証債をオーバーウェイト、地方債や事業債などをアンダーウェイトとしています。

【日本株式】

米国でインフレ懸念が再燃する可能性を警戒し、米長期金利が上昇する際に選好されにくいと考えられる銘柄等を売却しました。一方で、株主還元の拡充が期待できる銘柄や、半導体市況の循環的な回復による恩恵が見込まれる銘柄等を購入しました。

【外国債券】

地域別では、欧米では今後利下げを行うことが見込まれますが、大幅利下げ観測の修正が続く可能性もあると見ていました。こうした中、ユーロ圏ではドイツをアンダーウェイト、イタリア、スペイン等をオーバーウェイトとし、ユーロ圏全体ではオーバーウェイトとしました。また、カナダやメキシコ、ノルウェーをオーバーウェイトに維持し、中国は非保有としました。また、デュレーションについては、金利が変動する可能性も勘案し、短めで維持しました。

【外国株式】

当月は、人工知能(AI)戦略や中国事業、規制等をめぐる不透明感が強いと判断した米国のIT会社や、これまでの株価上昇を受けて割安感が薄れたアイルランドの紙製包装材メーカー等を売却しました。

※上記コメントは、「ドイチェ・日本株式マザー」、「ドイチェ・日本債券マザー」、「ドイチェ・外国株式マザー」、「ドイチェ・外国債券マザー」に関するものです。

3. 今月の付加価値の源泉

【日本債券】

超長期年限をオーバーウェイトとしたポジションは、年限の配分効果はマイナス、銘柄選択効果もマイナスとなりました。資産別では、地方債や事業債などをアンダーウェイトとした配分効果はマイナスとなり、国債の銘柄選択効果もマイナスとなりました。この結果、ファンドのリターンはベンチマークを下回りました。

【日本株式】

3月の当戦略のパフォーマンスは、ベンチマークを上回りました。

業種選択では鉱業や不動産業のオーバーウェイトなどがプラスに寄与しました。銘柄選択では、三越伊勢丹ホールディングス(小売業)や三井不動産(不動産業)のオーバーウェイトなどがプラスに寄与しました。

【外国債券】

為替市場では、メキシコ・ペソや米ドル等が主要通貨に対して上昇したことから、これらの通貨のオーバーウェイトはプラスとなり、為替の選択効果はプラスとなりました。銘柄選択効果については、米国の銘柄選択はプラスとなった一方、ユーロ圏や英国の銘柄選択が振るわず、マイナスとなりました。こうした結果、月間リターンはベンチマークを上回りました。

【外国株式】

パフォーマンスはベンチマークを下回りました。業種別では、一般消費財・サービスセクターにおける銘柄選択がプラスに寄与したものの、金融セクターや資本財・サービスセクターにおける銘柄選択が足を引っ張りました。個別銘柄では、アルファベット(米国、コミュニケーション・サービス)のオーバーウェイトや、テスラ(米国、一般消費財・サービス)の非保有等がプラスに寄与した一方、エヌビディア(米国、情報技術)の非保有やビザ(米国、金融)のオーバーウェイト等がマイナスに働きました。

4. 来月以降の市場見通しおよび投資戦略

【日本債券】

世界的な金融引き締めの影響や、中国景気の不透明感が国内景気の下押し材料となる一方で、雇用・所得環境の改善や、国内の緩和的な金融環境、政策面のサポートに支えられ、国内経済は緩やかな回復基調が続くと見えています。国内債券市場は、物価動向や賃金動向、日銀の金融政策に対する思惑、海外金利動向等が市場の変動要因になると考えています。

国内外のインフレ動向や主要国の各種政策、経済・政局情勢等の外部環境を踏まえ、デフレーションについては、ベンチマークに対してニュートラル付近からやや長めで調整する方針です。また、年限別及び資産別の配分につきましては、海外市場動向や国内経済指標、地政学リスク等に留意しつつ、機動的に対応する予定です。

【日本株式】

国内株式市場は、中期的な上昇基調が続くと見えています。225銘柄で構成される日経平均株価だけでなく、約2,000銘柄で計算されるTOPIXも史上最高値を更新すれば、日本株は新たな上昇局面に入ったという認識が、国内・海外投資家の間で一段と強まると思われます。年初来の上昇ペースが速かったことから、短期的には利益確定の売りに押される場面も想定されますが、新たな投資家層からの資金流入が支えとなり、株価は底堅く推移すると見えています。東京証券取引所から資本コストの改善を意識した経営が要請されて1年が経過しましたが、幅広い業種の企業で取り組みが実施された点も株価の底上げに寄与しているとみられ、各上場企業の取り組み継続とさらなる拡大が期待されます。運用にあたっては、株主還元の強化が期待される銘柄、半導体関連銘柄、デフレ脱却恩恵銘柄、日銀の金融政策正常化で恩恵を受けやすい銘柄等に注目しています。

【外国債券】

国債市場については、欧米中銀による利下げ開始のタイミングや、その後の利下げペースを巡る憶測等から金利は変動すると見られます。このため、インフレ関連指標や高官発言等が注目されます。また、2024年は多くの国で選挙が行われることや、政情不安が続く地域もあり、地政学リスクも変動要因となる可能性があります。

今後の運用については、主要国の金融政策や、各国の政治状況等を踏まえ、ポートフォリオの構築をする方針です。地域別および年限別の配分につきましては、利回り水準や市場の変動性に留意しつつ、機動的に対応する予定です。また、ポートフォリオの金利リスクについては、金融政策の動向や金利水準等を踏まえ調整することとします。

【外国株式】

足元では良好な経済指標が目立っており、米景気は後退を免れ、ソフトランディングに至る可能性が高まっていると考えています。また、企業業績の成長や株式リスクプレミアムの低下等も考慮すると、今後1年で世界株はさらに上昇すると見えています。一方、経済成長やインフレの見通しは依然として不透明な状況にあることや、これから企業の四半期決算発表が始まることから、経済指標や金融当局者の発言、企業業績等に注目していく方針です。ポートフォリオの構築にあたっては、リスクを考慮しながら、特に各企業のビジネスモデルや経営陣の質、利益成長、バランスシート、バリュエーションに注目し、グローバルな視点から詳細な分析を行い、銘柄を選別していく方針です。

*金利(利回り): 債券価格は金利変動の影響を受けます。一般的に金利が低下した場合には債券価格は上昇し、逆に金利が上昇した場合には債券価格は下落する傾向があります。

*デフレーション: 金利変動に対する債券価格の変動性を示します。一般的にデフレーションが長いほど金利変動に対する価格の変動が大きくなります。

※上記コメントは、「ドイチェ・日本株式マザー」、「ドイチェ・日本債券マザー」、「ドイチェ・外国株式マザー」、「ドイチェ・外国債券マザー」に関するものです。

※将来の市場環境の変動等により、上記の投資戦略が変更される場合があります。

ファンドの特色

1. 国内債券・国内株式・外国債券・外国株式等へ投資する各マザーファンドへの分散投資により、リスクを低減しつつ中長期的な安定収益の獲得を目指します。
2. 資産配分の中立的配分となる「基本アセット・ミックス」を決定し、一定の範囲内で資産配分の調整を行います。
3. ベンチマーク(運用を評価するための指標)を定め、アクティブ運用によって、ベンチマークを上回る収益を追求します。

各ファンドのベンチマークは、委託会社が、国内債券：NOMURA-BPI総合^{*1}、国内株式：TOPIX(東証株価指数：配当込み)^{*2}、外国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本)^{*3}、外国株式：MSCIコクサイ指数(配当込み)^{*4}、現預金等：有担保コール・レートそれぞれ中立的配分で加重して計算したものです。

- *1 NOMURA-BPIは、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社(以下「NFRFC」といいます。)が公表している指数で、その知的財産権その他一切の権利はNFRFCに帰属します。なお、NFRFCはNOMURA-BPIを用いて行われるドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切の責任を負いません。
- *2 TOPIX(東証株価指数)の指数値及びTOPIXにかかる標準または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXにかかる標準または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- *3 FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- *4 MSCIコクサイ指数は、MSCIインク(以下「MSCI」といいます。)が算出する指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
(注)ファンドのパフォーマンスはベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークは一定の投資成果を保証するものではありません。
また、株式及び金融・債券市場の構造変化等によってはベンチマークを変更する場合があります。

4. 原則として為替ヘッジは行わないことを基本としますが、為替変動によって為替差損が生じる可能性があること判断した場合は、為替ヘッジを行います。
5. ファミリーファンド方式^{*}で運用を行います。

*「ファミリーファンド方式」とは、運用及び管理面の合理化・効率化をはかるため、投資者から集めた資金をまとめてペビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して実質的な運用を行う仕組みです。

(注)市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元金が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。当ファンドに生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。基準価額の変動要因は、以下に限定されません。なお、当ファンドは預貯金と異なります。

- ① **株価変動リスク**
株価は、政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。これによりファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
- ② **金利変動リスク**
債券価格は、通常、金利が上昇した場合には下落傾向となり、金利が低下した場合には上昇傾向となります。したがって、金利が上昇した場合には、保有している債券の価格は下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
- ③ **信用リスク**
株価及び債券価格は、発行者の信用状況等の悪化により下落することがあり、これによりファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
- ④ **為替変動リスク**
外貨建資産の価格は、為替レートの変動の影響を受けます。外貨建資産の価格は、通常、為替レートが円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。したがって、為替レートが円高になれば外貨建資産の価格が下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
- ⑤ **流動性リスク**
急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

その他の留意点

- ・各資産への投資配分(各マザーファンド受益証券への投資配分)は、「基本アセット・ミックス」を中立的配分とし、一定の変更限度内で調整を行いますが、相対的に収益率の劣る資産への投資配分を増やすことにより中立的な投資配分をした場合より基準価額のパフォーマンスが劣る場合があります。
- ・マザーファンドを投資対象とする他のペビーファンドの購入申込みまたは換金申込み等により、当該マザーファンドにおいて売買が生じた場合等には、当ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。
- ・当ファンドは、大量の換金が発生し短期間で換金代金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性等があります。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり量が小さかった場合も同様です。

お申込みメモ

- **信託期間** 信託設定日(1998年11月26日)から無期限とします。
ただし、残存口数が10億口を下回ることとなった場合、受益者のために有利であると委託会社が認める場合またはやむを得ない事情が発生した場合には、信託を終了させていただくことがあります。
- **決算日** 原則として毎年11月15日(休業日の場合は翌営業日)とします。
- **収益分配** 年1回の毎決算時に、信託約款に定める収益分配方針に基づいて行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。
(注)将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
- **購入価額** 購入申込受付日の基準価額
- **購入単位** 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
- **購入申込／換金申込の受付** 原則として、販売会社の営業日の午後3時までに購入申込み／換金申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。
- **換金価額** 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- **換金単位** 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
- **換金代金支払日** 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
※ 確定拠出年金制度による申込みの場合には、上記と異なる場合があります。
- **課税関係** 課税上は株式投資信託として取扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA(ニーサ))の適用対象となります。当ファンドは、NISAの対象ではありません。
配当控除、益金不算入制度の適用はありません。
※ 上記は2024年1月1日現在のもので、税法が改正された場合等には変更される場合があります。

ファンドの費用

時期	項目	費用		
<投資者が直接的に負担する費用>				
		ライフ・プラン 30	ライフ・プラン 50	ライフ・プラン 70
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に 2.2% (税抜2.0%) を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額		
換金(解約)時	信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に 0.3% を乗じて得た額		
<投資者が信託財産で間接的に負担する費用>				
毎日	運用管理費用 (信託報酬)	信託財産の純資産総額に対し 年率 1.10% (税抜1.00%)	信託財産の純資産総額に対し 年率 1.32% (税抜1.20%)	信託財産の純資産総額に対し 年率 1.54% (税抜1.40%)
	その他の費用・手数料	当ファンドにおいて、信託事務の処理等に要する諸費用(ファンドの監査に係る監査法人への報酬、法律・税務顧問への報酬、目論見書・運用報告書等の作成・印刷等に係る費用等を含みます。以下同じ。)、組入資産の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、租税等がかかります。これらは原則として信託財産が負担します。ただし、これらの費用のうち信託事務の処理等に要する諸費用の信託財産での負担は、その純資産総額に対して年率 0.10%上限 とします。「その他の費用・手数料」は、運用状況等により変動するものであり、一部を除き事前に料率、上限額等を表示することができません。		

- ※ 投資者の皆様が負担する費用の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
- ※ 「税」とは、消費税及び地方消費税に相当する金額のことをさします。
- ※ 収益分配金を再投資する際には購入時手数料はかかりません。

委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 **ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
信託財産の運用指図等を行います。
ホームページアドレス <https://funds.dws.com/ja-jp/>
- 受託会社 **三井住友信託銀行株式会社**
信託財産の保管・管理等を行います。
- 販売会社 当ファンドの募集の取扱い等を行います。投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社にて行います。
販売会社につきましては、委託会社にお問合せ下さい。

<ご留意事項>

投資信託のお申込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。

■ 当資料はドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成した資料です。■ 当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。データ等参考情報は信頼できる情報をもとに作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。また、使用しているデータについては特段の注記の無い限り、費用・税金等を考慮しておりません。■ 当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。■ 投資信託は、株式、公社債などの値動きのある証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されるものではありません。投資信託の運用による損益は、すべて投資信託をご購入のお客様に帰属します。■ 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。■ 投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。■ 登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。■ ご購入に際しては、販売会社より最新の投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ず内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。

当ファンドの販売会社は以下の通りです。

(五十音順)

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会				備考
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○				委託金融商品取引業者: マネックス証券株式会社
株式会社伊予銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第2号	○		○		*
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	*
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
株式会社SBI新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○		委託金融商品取引業者: 株式会社SBI証券 マネックス証券株式会社
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○				*
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第8号	○				
株式会社 群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○		○		
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○				*
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○		*
四国アライアンス証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第21号	○				
株式会社 荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○				*
株式会社 常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○		*
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○		*
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○	*
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第15号	○				*
株式会社 西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○		*
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○		
株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○				*
株式会社 百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○		
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○				
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第5号	○		○		*
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○		

※備考欄に*の表示がある場合、購入申込の取扱いを中止しております。詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。

当ファンドの販売会社は以下の通りです。

(五十音順)

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会				備考
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社 北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○		○		*
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○		*
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○		○		*
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○				*
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	

※備考欄に*の表示がある場合、購入申込の取扱いを中止しております。詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。